

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果概要

1 調査概要

(1) 調査を実施した学校・児童生徒数（学校数、児童生徒数には、特別支援学校を含む）

調査日 令和4年4月19日（火）		小学校調査（6年）		中学校調査（3年）	
		学校数	児童数	学校数	生徒数
全国	公立学校	18,671校	965,761人*	9,348校	892,585人*
茨城県	公立学校	458校	21,798人*	229校	21,556人*

* 児童生徒数は教科・分野ごとに異なるが、最大数を記している。

(2) 調査内容

① 教科に関する調査（知識と活用を一体的に問う問題）

- ・ 小学校調査：国語、算数、理科
- ・ 中学校調査：国語、数学、理科

② 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

- ・ 児童生徒質問紙調査
- ・ 学校質問紙調査

※ 解答方式：選択式（マークシート）、短答式、記述式のいずれかによる。

2 結果一覧（公立）（％は平均正答率）

区分	小学校調査（6年）			中学校調査（3年）		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
茨城県	65%	62%	64%	70%	50%	50%
全国	65.6%	63.2%	63.3%	69.0%	51.4%	49.3%
順位	23位	24位	10位	5位	28位	10位

※ 順位については、国から提供された都道府県の平均正答率をもとに県が算出。

※ 都道府県別の教科の平均正答率は、国から、小数点以下を四捨五入した整数値で提供されている。

【参考1】全国学力・学習状況調査の経緯

調査年度	調査方式	抽出率	希望利用率	実施率
平成19年度～21年度	悉皆調査			100%
平成22年度	抽出調査	30.8%	64.7%	95.5%
平成23年度	調査見送り			
平成24年度	抽出調査	31.1%	68.9%	100%
平成25年度～31(令和元)年度	悉皆調査			100%
令和2年度	調査見送り			
令和3年度	悉皆調査			100%
令和4年度	悉皆調査			100%

※ 平成23年度は、東日本大震災のため調査見送り。

※ 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により調査見送り。

【参考2】前回調査（令和3年度）の結果

★理科は平成30年度の結果

区分	小学校調査（6年）			中学校調査（3年）		
	国語	算数	理科★	国語	数学	理科★
茨城県	65%	70%	63%	64%	56%	68%
全国	64.7%	70.2%	60.3%	64.6%	57.2%	66.1%
順位	16位	13位	5位	30位	25位	9位

※ 都道府県別の教科の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数値で国から提供されている。

小学校国語科 成果と課題について

成果の見られた設問 【正答率 75%以上の主なもの】		正答率
1一	【言葉の特徴や使い方】話し言葉と書き言葉との違いを理解する 【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	本県：85.6 全国：85.5
1三	【話すこと・聞くこと】必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える 【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	本県：85.6 全国：84.7
3四	【我が国の言語文化】漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く (一) から (二) に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する	本県：77.2 全国：77.9

成果に結び付いたと考えられる指導

【言葉の特徴や使い方】

○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるようにする指導の充実

- ・授業場面では、自分の考えが正確に伝わるように、聞き手の立場に立った上で話すことの大切さを指導している。話し手が聞き手のうなずきや表情に注意し、自分の話したことが伝わっているかを確かめながら、修正したり説明を付け加えたりして話すことを、スピーチや話し合いの授業場面において指導している。

【話すこと・聞くこと】

○必要なことを記録したり質問したりして話の中心を捉えることができるようにする指導の充実

- ・授業場面において必要なことを記録したり、分からないことを質問したりすることを通して、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることを指導している。さらに、質問した上で分かったこと等を踏まえて自分の考えをまとめ、表現できるような場面を意図的に設定している。

【我が国の言語文化】

○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるようにする指導の充実

- ・相手の立場に立って、読みやすいかどうかを意識して書くことを、授業場面だけでなく日常の生活場面などにおいても指導している。硬筆や毛筆の学習の際にも指導した上で、日常の生活場面において活用できるように、意図的な活動場面の設定をしている。

課題の見られた設問 【正答率 60%以下の主なもの】		正答率
1四	【話すこと・聞くこと】互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く	本県：52.2 全国：47.7
3一	【書くこと】文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える 【文章2】の <input type="text"/> の部分を、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する	本県：57.5 全国：59.2
3二	【書くこと】文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	本県：34.6 全国：37.7

課題の改善に向けて

【話すこと・聞くこと】

○互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるようにする

- ・話し合いを始める際に話し合いの目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理すること、様々な視点から検討して自分の考えをまとめることを学習活動に位置付ける。

【書くこと】

○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるようにする

- ・自分の考えが明確に伝わるように、書く相手や目的に応じて自分が書いた文章を読み直して整える学習活動を設定する。その際、読み手にとって分かりやすい文章にしたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識し、推敲する必要性を感じることができるよう指導する。

○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるようにする

- ・学習指導に当たっては、授業場面において伝え合うことを通して、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりすることができるように指導する。自分の文章のよいところとして、第1・2学年では「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、第3・4学年では「書こうとしたことの明確さ」、第5・6学年では「文章全体の構成や展開の明確さ」等を見付けることができるように、系統的に指導する。

中学校国語科 成果と課題について

成果の見られた設問 【正答率 80%以上の主なもの】		正答率
②一	【言葉の特徴や使い方】 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う 意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	本県：83.1 全国：82.3
③二	【言葉の特徴や使い方】 事象や行為、心情を表す語句について理解する 「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	本県：82.3 全国：84.0
④二	【我が国の言語文化】 漢字の行書の読みやすい書き方について理解する 最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する	本県：90.1 全国：90.1
④三	【我が国の言語文化】 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する 書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する	本県：81.9 全国：81.1

成果に結び付いたと考えられる指導

【言葉の特徴や使い方】

○助詞や助動詞の働きを理解し、文や文章の中で使うことができるようになる指導の充実

・助詞や助動詞の働きを踏まえ、場面に応じて適切に使い分けができるように指導している。自分の考えを述べる文章を書く際には、助詞や助動詞の働きに注目して文章を読み直し、分かりやすい文章に整えていく学習活動を行っている。

○文脈における語句の意味を理解しながら文学的な文章を読むことができるようになる指導の充実

・文学的な文章で出合った言葉を取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えたり、別の言葉に言い換えたりするなどの学習活動を積み上げている。

【我が国の言語文化】

○字形を整え、文字の大きさ、配列などに注意して書くことができるようになる指導の充実

・行書の文字について、これまでの書写の学習で身に付けた知識や技能を生かし、字形や文字の大きさ、配列などに配慮して指導している。

○筆脈を意識して、漢字の行書と仮名を調和させて書くことができるようになる指導の充実

・行書特有の筆脈の連続や運筆のリズムを理解できるように、毛筆の指導を行っている。楷書と仮名の調和した書き方を確認し、行書で書く場合はどのようにすればよいのかを考える学習活動を通して指導している。

課題の見られた設問 【正答率 55%以下の主なもの】

課題の見られた設問 【正答率 55%以下の主なもの】		正答率
①三	【言葉の特徴や使い方】 【話すこと】 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	本県：54.4 全国：51.8
②三	【情報の扱い方】 【書くこと】 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く 農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	本県：51.2 全国：46.5
④一	【我が国の言語文化】 行書の特徴を理解する 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	本県：41.1 全国：39.4

課題の改善に向けて

【言葉の特徴や使い方】 【話すこと】

○音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話すことができるようになる

・1人1台端末でスピーチの様子を記録し、話し方を振り返ったり、工夫したことの効果を確かめたりする学習活動を位置付ける。その際、聞き手の興味・関心、情報量等を考慮しながら話す内容や話し方を検討したり、なぜそのように表現を工夫したのか、その意図を明確にして工夫したことの効果を確かめたりする場面を設定して指導する。

【情報の扱い方】 【書くこと】

○考えの根拠が明確になるように情報を引用して書くことができるようになる

・引用箇所をかきかっこでくくこと、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えられるように指導する。意見文を書く際には、自分の考えを支える根拠として、資料を適切に引用することができるように指導する。

【我が国の言語文化】

○楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書くことができるようになる

・同じ文字を楷書で書いたものと行書で書いたものとを比較したり、点画の連続や省略、筆順の変化などの行書の特徴が、実際に行書で書いた文字のどの部分に表れているのかを確かめたりする学習活動を位置付ける。

小学校算数教科 成果と課題について

成果の見られた設問【正答率 75%以上の主なもの】		正答率
1(1)	【数と計算】被除数に空位のある整数の乗法の計算をする 1050×4を計算する	本県：91.3 全国：92.4
1(3)	【数と計算】示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	本県：77.2 全国：76.0
4(2)	【図形】図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解する 長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く	本県：81.0 全国：83.2

成果に結びついたと考えられる指導	
<p>【数と計算】</p> <p>○乗法に関して成り立つ性質を用いて、計算できるようにする指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空位のある整数の乗法では、位に気を付けて処理できるように指導している。 <p>○数量の関係を捉え、除法の式の意味を説明することができる指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の問題を解決するために、一つ分の大きさ、幾つ分、幾つ分かに当たる大きさの関係を捉え、式に表したり、式の意味を説明したりすることを丁寧に指導している。 <p>【図形】</p> <p>○図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について考察する指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形を構成する要素やそれらの関係に着目し、長方形の作図の仕方について、筋道を立てて考えることができるように指導している。 	

課題の見られた設問【正答率が 50%以下の主なもの】		正答率
1(4)	【数と計算】示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する 85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ	本県：36.4 全国：34.8
2(3)	【変化と関係】示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ	本県：21.0 全国：21.4
2(4)	【変化と関係】伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する 果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	本県：46.6 全国：48.0
4(1)	【図形】正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する 示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	本県：45.1 全国：48.8

課題の改善に向けて	
<p>【数と計算】</p> <p>○目的に合った数の処理の仕方を考えることができるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り上げ、切り捨て、四捨五入などを形式的な処理をするだけに終わらせることなく、日常生活の場面を取り上げ、目的に応じて数の大きさを見積もるために概算する場面を設定する。その上で、概算の結果と実際の数の計算結果を比較し、大小関係について話し合う。 <p>【変化と関係】</p> <p>○日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲み物を分けても、果汁の濃さは変わらないという生活経験を想起できるような指導場面を設定する。飲み物の量を等しく分けたとき果汁の量も等しく分けられるという生活経験を基にした判断を、分けられた飲み物に含まれる果汁の量の割合を計算で求めた結果を関連付け、割合は変わらないことに気付かせる。 <p>○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、未知の数量を求めることができるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる二つの数量を見だし、一方の数量に伴って他方の数量がどのように変化するか調べるために、表に整理する活動場面を設ける。整理された値から二つの数量が比例関係にあることを見出すために、一方が2倍、3倍、…になると、もう一方も2倍、3倍、…になることを確認する。 <p>【図形】</p> <p>○図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方について考察して、改善することができるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角の大きさを回転の大きさと捉えたり、回転の向きを確認したりする場面を設定する。また、正三角形の一つの角の大きさと180°の間にある数量的な関係を見出すことを通して、回転する角の大きさを120°にする必要があることに気付けるようにし、その理由を考える場面を設定する。 	

中学校数学科 成果と課題について

成果の見られた設問【正答率が70%以上の主なもの】		正答率
⑤	【データの活用】多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解する 容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	本県：84.5 全国：83.3
⑥(1)	【数と式】問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる 同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	本県：72.5 全国：73.8

成果に結び付いたと考えられる指導	
<p>【データの活用】</p> <p>○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解できるようにする指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 多数回の試行における結果から得られた相対度数は、一定の値に近づいていくことを実感を伴って理解できるように丁寧に指導している。 <p>【数と式】</p> <p>○予想した事柄が成り立つことの説明を振り返り、文字を用いた式がどのような事柄を表しているかを確認する指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるようにするために、予想した事柄が成り立つことの説明を振り返り、文字を用いた式と具体的な数を用いた式とを相互に関連付けながら、文字を用いた式がどのような事柄を表しているのかを理解できるように指導している。 	

課題の見られた設問【正答率が40%以下の主なもの】		正答率
⑥(3)	【数と式】結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	本県：38.4 全国：37.6
⑦(2)	【データの活用】箱ひげ図から分布の特徴を読み取る 箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	本県：39.7 全国：44.1
⑧(2)	【関数】事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する 目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	本県：38.7 全国：38.4
⑨(2)	【図形】筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	本県：10.1 全国：12.5

課題の改善に向けて	
<p>【数と式】</p> <p>○結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例をあげて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現する機会を設定する。本問を使って授業を行う場合には、「差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。」ことから、他にはどのような2つの偶数であれば、その和が4の倍数となるか説明する活動を取り入れる。また、説明する際に、目的に応じて式を変形することについて丁寧に指導する。 <p>【データの活用】</p> <p>○四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を通して、四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を指導する。その際、ドットプロットと箱ひげ図を並べ、データの分布の類似点に気付けるようにする。さらに、箱ひげ図は複数のデータの分布を比較するとき、視覚的に比較がしやすい統計的な表現であることを捉えられるようにする。 <p>【関数】</p> <p>○問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決の方法に焦点を当て、例えば、表、式、グラフなどの「用いるもの」と「用い方」について考え、その両方を的確に説明する機会を計画的に取り入れていく。また、解決の過程を振り返り、不十分な表現を取り上げて吟味する活動を設ける。 <p>【図形】</p> <p>○ある条件の下で成り立つ図形の性質を見だし、それが成り立つ理由を数学的に説明できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ長さの辺や、同じ大きさの角に、印や記号を付けることで、図形の性質や関係を捉え、説明の見通しをもつための指導を位置付ける。数学的な表現を用いて事柄が成り立つ理由を説明する場面を設けるとともに証明を振り返り、新たに分かる性質を見いだす活動を取り入れる。 	

小学校理科 成果と課題について

成果の見られた設問【正答率 80%以上の主なもの】		正答率
①(1)	【生命に関する問題】問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ	本県：92.9 全国：92.9
②(1)	【粒子に関する問題】メスシリンダーという器具を理解している 一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く	本県：83.9 全国：67.8
④(1)	【地球に関する問題】観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し自分の考えをもつことができる 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ	本県：81.5 全国：82.3

成果に結びついたと考えられる指導	
<p>【生命に関する問題】 ○問題を解決するまでの道筋を構想し、解決の方法を発想できるようにする指導の充実 ・授業の中で、自分の予想や仮説だけでなく、他者の予想や仮説についても把握し、解決の方法を発想できるような意見交換の場を設定して指導している。</p> <p>【粒子に関する問題】 ○定性や定量の視点から、目的に応じて実験器具や機器を選択し扱う指導の充実 ・器具の名称や操作法等を理解し、一定量の液体の体積を適切にはかり取るなど、目的に応じた器具を選択できるよう指導している。</p> <p>【地球に関する問題】 ○観察、実験などで得た結果について分析して、解釈しより妥当な考えをつくりだすことができるようにする指導の充実 ・問題を把握し、観察、実験などの結果と既習の内容や生活経験とを関連付けながら、結果の傾向を捉え、問題に正対した結論を導きだせるよう指導している。</p>	

課題の見られた設問【正答率が 45%以下の主なもの】		正答率
②(4)	【粒子に関する問題】自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる 凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く	本県：42.1 全国：39.3
③(1)	【エネルギーに関する問題】日光は直進することを理解している 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	本県：29.5 全国：27.8
③(4)	【エネルギーに関する問題】実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる 問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く	本県：32.4 全国：35.1
④(3)	【地球に関する問題】観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる 結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	本県：42.9 全国：45.5

課題の改善に向けて	
<p>【粒子に関する問題】 ○自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気付きを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにする ・児童同士が話し合う中で、比較の考え方を働かせながら、自分や他者の気付きを基に、差異点や共通点を捉え、問題を見いだす場面を設定していく。 例 空気の温度による体積の変化について学習した後、「空気は押し縮められるけれど、水は押し縮められなかったように、空気と水の性質は違うのかな」、「空気の温度と体積の関係が分かったけれど、水はどうなのかな」、などと調べたいことについて話し合う中で、「水は空気と同じように、温度を変えると体積は変わるのだろうか」といった問題を見いだす。</p> <p>【エネルギーに関する問題】 【地球に関する問題】 ○観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだし、表現できるようにする ・結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定していく。 例 問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす。その際、結果を基に結論の根拠を記述することが難しい場合には、結論の根拠になる結果の記述例を示し、適切なものを選ぶことができるようにする。 ・結果などから結論を導きだすために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定する。</p>	

中学校理科 成果と課題について

成果の見られた設問【正答率が70%以上の主なもの】		正答率
①(2)	【「エネルギー」を柱とする領域】モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	本県：81.8 全国：78.5
③(1)	【「粒子」を柱とする領域】化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる 分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	本県：80.8 全国：80.1
④(1)	【「生命」を柱とする領域】節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	本県：73.6 全国：74.5

成果に結び付いたと考えられる指導	
<p>【「エネルギー」を柱とする領域】</p> <p>○変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるようにする指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な現象を探究する際、観察を通して抽出した要因を整理し、変える条件と変えない条件を検討し、実験を計画するよう指導している。 <p>【「粒子」を柱とする領域】</p> <p>○原子や分子のモデルを基に、化学変化を化学反応式で表すことができるようにする指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近に見られる化学変化を原子や分子のモデルで微視的に現象を捉えることで、化学変化に関係する原子や分子の種類や数に関することを可視化して理解することができるよう授業で指導している。その際、原子や分子のモデルを基に、化学変化を化学反応式で表す活動を通して、粒子のモデルで表す有用性を実感できるよう指導している。 	

課題の見られた設問【正答率が45%以下の主なもの】		正答率
②(3)	【「地球」を柱とする領域】飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる 上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	本県：30.7 全国：28.5
③(3)	【「粒子」を柱とする領域】化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる 水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	本県：24.5 全国：24.8
⑤(1)	【「エネルギー」を柱とする領域】力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	本県：16.6 全国：15.3
⑤(3)	【「エネルギー」を柱とする領域】考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる 考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	本県：43.2 全国：43.3

課題の改善に向けて	
<p>【「地球」を柱とする領域】</p> <p>○考察の根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の考察の根拠としている観測データの種類や科学的に探究する方法が妥当か検討する学習場面を設定する。その際、用いた観測データが自然の事物・現象と対応しているか、観測データの読み取りが適切であるかなどの視点を明示する。 <p>【「粒子」を柱とする領域】</p> <p>○化学変化と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、分析して解釈できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 水の電気分解や水素の燃焼などの化学変化には、電気、熱、光など「エネルギー」を柱とする領域が関連していることに気付くよう指導する。その際、化学変化を起こすきっかけとなるエネルギーの形態だけでなく、それらが生み出される過程について触れるようにする。 <p>【「エネルギー」を柱とする領域】</p> <p>○物体に働く重力とつり合う力を矢印で表して説明できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明する学習場面を設定する。 <p>【「エネルギー」を柱とする領域】</p> <p>○考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善できるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> 測定値の不足から妥当性の高い考察が行えない場合、測定する間隔や範囲などの改善点を明確にし、それらを基に実験の計画を検討して改善する学習場面を設定する。 	

教科に関する児童生徒質問紙調査結果

(4) 児童生徒質問紙調査 ※「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

	国語の勉強は好き		国語の勉強は大切		国語の学習は将来に役立つ	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
本県	60.3%	64.8%	93.5%	93.2%	91.9%	90.3%
全国	59.2%	61.9%	93.3%	93.2%	91.8%	89.7%

	算数・数学の勉強は好き		算数・数学の勉強は大切		算数・数学の学習は将来に役立つ	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
本県	60.7%	55.7%	93.8%	87.6%	92.8%	78.3%
全国	62.5%	58.1%	94.2%	86.6%	93.3%	76.5%

	理科の勉強は好き		理科の勉強は大切		理科の学習は将来に役立つ	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
本県	84.7%	68.9%	88.4%	79.8%	79.4%	65.9%
全国	79.7%	66.4%	86.5%	76.8%	77.2%	61.5%

児童生徒質問紙調査から

- ・国語については、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、どの項目も全国の割合以上の結果であった。
- ・算数については、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、どの項目も全国の割合よりも低かった。数学については、「数学の勉強は大切」「数学の学習は将来に役立つ」の質問で、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒の割合が、全国の割合より高い結果であった。
- ・理科については、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答している児童生徒の割合は、どの項目も全国の割合より高い結果であった。

○ 令和4年度全国学力・学習状況調査における教科に関する調査問題、正答例、解説資料、質問紙調査については、国立教育政策研究所のホームページを参照してください。

<https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

生活習慣や学習環境に関する児童生徒・学校質問紙の結果



児童生徒質問紙調査より

○ 全国平均を上回った主な項目

・ 基本的な生活習慣等に関する内容

(「している」、「どちらかといえば、している」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
朝食を毎日食べていますか	94.5%	94.4%	92.7%	91.9%
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.0%	81.5%	80.3%	79.9%
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.1%	90.4%	92.8%	92.2%

・ 学習習慣、学習環境等に関する内容

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか」 (「自分で調べる」と回答した割合)	69.0%	68.2%	77.4%	74.4%
家で自分で計画を立てて勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含む) (「している」、「ときどきしている」と回答した割合)	77.7%	71.1%	64.2%	58.5%

・ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感に関する内容

(「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
将来の夢や目標を持っていますか	80.8%	79.8%	68.6%	67.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.1%	96.8%	96.6%	96.4%
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	74.6%	73.5%	77.1%	76.9%

・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する内容

(「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	78.5%	77.3%	81.4%	79.2%
前学年までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	74.4%	72.2%	71.6%	67.4%
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	79.2%	78.2%	76.6%	74.7%
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	75.0%	73.5%	81.4%	76.8%

・ ICTを活用した学習状況に関する内容

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)(「ほぼ毎日」、「週3日以上」と回答した割合)	45.5%	43.9%	54.7%	37.2%
学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(「役に立つと思う」、「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答した割合)	94.9%	94.4%	94.7%	92.6%

▼ 全国平均を下回った主な項目

・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する内容

(「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	79.7%	80.1%	78.5%	78.7%

学校質問紙調査より

○ 全国平均を上回った主な項目

・学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況に関する内容

(「よくしている」、「どちらかといえば、している」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	93.2%	92.3%	86.9%	82.3%
児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	88.7%	83.6%	90.4%	78.6%

・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況に関する内容

(「そう思う(よく行った)」、「どちらかといえば、そう思う(行った)」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
調査対象・学年児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	87.7%	87.2%	92.1%	87.9%
調査対象・学年に対して前年度までに各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	86.9%	83.4%	80.3%	76.6%

・小学校教育と中学校教育の連携に関する内容

(「よく行った」、「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
前年度までに、近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	58.2%	52.7%	67.2%	61.1%
令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小(中)学校と成果や課題を共有しましたか	48.9%	44.5%	56.4%	47.6%

・学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況に関する内容

(「よくしている」、「どちらかといえば、している」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどにに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	97.6%	94.2%	97.8%	93.3%

・ICTを活用した学習状況に関する内容

(「ほぼ毎日」、「週3回以上」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
前年度に、教員が大型掲示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	90.7%	86.2%	95.6%	87.7%

・新型コロナウイルス感染症の影響に関する内容

(「基本的に全校で実施」、「一部の学年・学級で実施」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業をしていた期間中、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を行いましたか	93.9%	11.0%	81.2%	8.6%

▼ 全国平均を下回った主な項目

・家庭や地域との連携等に関する内容

(「よく行った」、「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

質問項目	小学校		中学校	
	本県	全国	本県	全国
地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動のような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	63.3%	70.8%	43.7%	55.8%